

請 願 文 書 表

受 理 番 号	第 2 3 号
受 理 年 月 日	平成 2 5 年 1 1 月 2 7 日
件 名	「全国一斉学力テスト」学校別結果公表反対を求める請願
請願者の住所 及び氏名	前橋市大渡町 1 - 1 0 - 7 全群馬教職員組合 代表 石田 清人
請 願 の 要 旨	<p>大阪府教育委員会は 1 0 月 8 日、学校管理規則を改正し、全国学力・学習状況調査の学校別結果の公表を義務づけた。「保護者や地域の人たちに情報を公開することは大事だが、過度の競争や学校の序列化を招かないよう、今年度の実施要領では公表するかどうかは学校の自主的な判断に任せている。大阪府教委の方針は実施要領を逸脱している」とコメントした文部科学省も方針転換し、各教育委員会の判断で学校別結果の公表を認める方向で検討を始めている。</p> <p>国連子どもの権利委員会は、日本政府に対して「過度に競争主義的な環境による否定的な結果を避けることを目的として学校制度および学力にかんする仕組みを再検討すること」との勧告を行っている。学校別結果公表は、学校の序列化や過度な競争をすすめ、子どもや保護者・教職員を巻き込んだ競争教育をいっそう激化させるものである。テスト中心の教育で子どもたちは追いつめられ、点数を取ることだけが目標となる。</p> <p>全日本教職員組合が昨年実施したアンケート調査では、「学テ対策」として過去の問題や同傾向の問題をドリルとして繰り返しやらせるなどの事例が各地で見られる。北海道では教育委員会作成のドリルを学校現場で使うよう強要。「授業をつぶして徹底的に過去問練習」（秋田県）、「過去問を何度も繰り返し練習させる」（埼玉県）、「予想問題が県から出され、授業中に 2 回は行うよう指示があった」（佐賀県）など、普通の授業をつぶして「学テ対策」にあてている例がでている。</p> <p>学校現場では勤務時間内に授業準備もできない「多忙化」に苦しんでいる。学力の底上げや創造的な授業のために少人数学級の実施が切望されている。国の仕事は数十億円もかけて、「望まれない」「役立たない」テストを行うことではなく、教職員の多くが望んでいる①授業準備や教材研究の時間を勤務時間内に保障、② 3 0 人学級（少人数学級）の早期実現、③ 教職員定数の大幅増による担当授業数の軽減等、教育行政の本来的責務である勤務条件・教育条件整備にこそ力を入れるべきである。</p> <p>以上の趣旨に沿って、下記について請願する。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>1 全国学力・学習状況調査の学校別結果の公表を認めないことを求める 意見書を提出してほしい</p>
紹 介 議 員	渡辺 修
付 託 委 員 会	教育民生委員会
審 査 結 果	